

地域住民との連携による農空間保全

ぶつなみ地区農空間保全協議会（和泉市）

- 仏並地区は、平成17年に仏並土地改良区が設立され、土地改良区を中心に農地や水路、農道等の保全管理を進めてきたが、近年、後継者の減少により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。
- 多面的機能支払交付金を活用するため、平成27年度に新たにぶつなみ地区農空間保全協議会を設立し、仏並地区の地域資源の適切な保全管理と健全な農空間が継続して育むことが出来るようになった。

【地区概要】	
取組面積	6.11ha [田0.00ha 畑6.11ha]
農業用施設	開水路 2.7km 農道 0.9km ため池 2箇所
主な構成員	土地改良区、水利組合、自治会
交付金	122千円（R02）

活動開始前の状況や課題

- 地元農家による営農が行われていたが、後継者の不足、担い手の減少等、今後の持続的な農地・農業用施設の管理が課題。
- 整備完了後から約10年が経過し、一部施設で不具合・老朽化が生じ、施設の軽微な補修・長寿命化が課題。



取組内容

- 溝さらえや草刈りに加え、ポンプ等の施設の補修等を交付金を活用して実施し、施設の長寿命化を図っている。
- 地元保育園（きのみ保育園）の農業体験（野菜の苗植え、収穫）等、交流活動による地域住民の理解促進に取り組んでいる。



取組の効果

- 土地改良区が中心となって、きめ細やかな施設の軽微な補修に取り組むことにより、計画的に農業用施設の保全管理を実施。
- きのみ保育園の園児による農業体験を地域農家の指導により実施し、こどもの地域農業への理解促進、交流に寄与している。

